

風土記の丘の花だより²⁰⁶

今、そしてこれから見られる植物(2023年10月8日)

やっと秋らしい風が吹いてきました。長かった猛暑がやっと終わったようです。秋の花があちらこちらで咲いています。今回は4つとも万葉植物園で見ることができる花にしました。



薄い黄色の花はアキノノゲシです。春から夏にかけて咲いていたハルノノゲシ(ノゲシ)よりも色が薄く、全体にナヨナヨしていて、秋風が吹いたらフラフラしそうな感じがです。山菜で「やまくらげ」というのがあるのをご存じでしょうか。それはこのアキノノゲシに近い植物です。それで、このアキノノゲシの茎の皮を剥いで、やまくらげだとして召し上がる方にお会いしたことがあります。勧められましたが、なんとかうまく断ったような記憶があります。今から思えば、食べておけば良かったかなあ？



オケラの花が咲き始めました。この花は毎年この季節になると紹介しているので、もう何回目でしょうか。名前はインチクさいですが、とても稀少なキク科の植物です。万葉植物園のシャクナゲの近くの囲いの中に多くの株が植えられています。でも、その種が飛んだのか、所々で見ることができます。園内でも何カ所か生えている所がありますが、少し入らないと、道沿いでは見かけません。花を取り巻く萼はまるで魚の骨のようなので、茎の刺に注意しながら観察してみてください。



水生植物の所でポントクタデが満開です。花穂が細長く、先が垂れます。つぼみの頃は赤いですが、開くと花びらは真っ白です。葉の真ん中にしばしば黒っぽい斑が入ります。ポントクとはなんぞや？それは、このあたりで言うところの「ぼんくら」のこと、要するに「ピリっとしない」ということです。葉にタデ独特のピリっとした辛みがないのです。先日、調査のため、大池の畔に下りて、群生しているヤナギタデ(ほんタデ)の葉をかじってみました。それは確かに辛かったです。(本当は、大池は立ち入り禁止です。皆さんは下りないでくださいね。)



万葉植物園の一番上の段、かつて大きなシラカシの木があって、今は切り株だけになっているところの正面右側にコメナモミが咲いています。よく知られた「ひつつき虫」のオオオナモミはトゲで衣服にひつつきますが、この仲間はネバネバでひつつきます。黄色い花の周りがあるヒトデみたいに見える部分にネバネバの毛が生えています。触って確かめてみてください。

松下